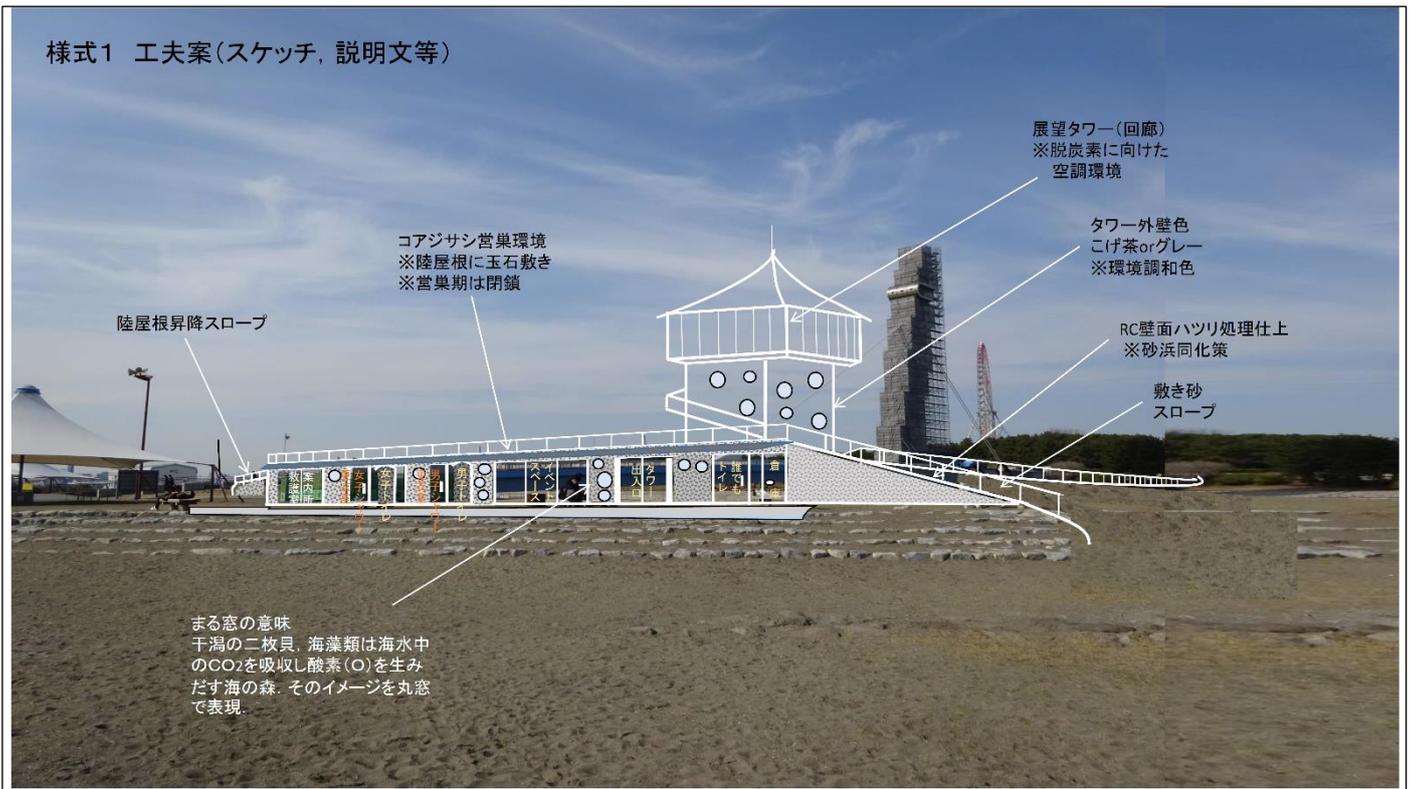
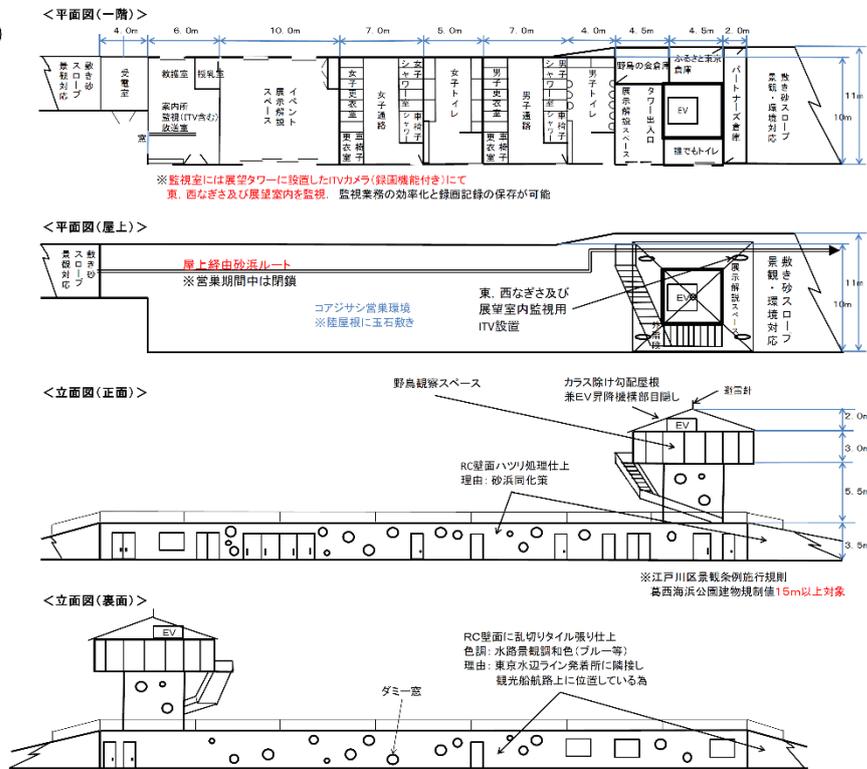


皆さんからお寄せいただいたアイデア

様式1 工夫案(スケッチ, 説明文等)



様式1 工夫案(スケッチ等)



関口 昌宏さん(江戸川区)

様式1 工夫案 (スケッチ、説明文等)

- ・スケッチの画法や画材は自由です。
- ・必要に応じて、枠内に収まる範囲で文章説明を添えることも可とします。
- ・大きめの文字で書く、文字の色を変える、吹き出しで囲む等、書き込んだ箇所が目立つようにしてください。

公園内にはいくつかガラス張りの建物があるが、
 馴染みを感じない。公園全体的に統一
 されたデザインにするためガラスを用いるが、
 木材がメインとされた温もりを感じられる建物です。

右サイトはデコボコとした形状が特徴。鳥の巣をイメージしたデザイン(対岸の公園にいる人にも見てほしい形状)

左サイトは、木材とガラスでシンプルデザイン(無垢材) ガラス部分は木材部分が多い。←

屋根は傾斜をつけ、鳥が当たりはたっていることを連想させるデザイン(鳥の羽)

建物は2階建て

雨水は灌漑システムを設置、植栽へ活用

水が溜りやすいので、背面へ傾斜させ流れやすいように

緩やかな傾斜

野鳥観察スペースは、部屋の中からデッキスペースから観察できる様になっている

屋根は鳥が当たりはたっていることを連想させる

背面へ傾斜

ウッドデッキスペース、イベント等にも利用可

低木
シヤリハヤ
ハマコウなど

高木
タブノキなど

既存の石を利用

鳥の巣を連想させるデザイン。右サイトはそこから見てデコボコした形状だ。外壁は木材(無垢材)を使用。外観からわかるためになる建物とする。

植物は、野鳥を建物付近までよび寄せ、間近で観察できるように、野鳥のイネ、餌場として設置

原則、在来種で海辺に適し、鳥の餌にもなる植物を選定

日陰がほとんどないため、高木を植栽し日よけできる場所を確保(建造物や簡易テントは景観的にマッチしないため植栽を用いる)

※記入例と重複する案でも構いません。

渚橋から直接にアプローチできる木製デッキ遊歩道を設置（バリアフリー化）

展望室のガラスは展望しやすいように傾斜をつけ、高透過ガラスとする
また庇を大きく設けて直射日光を避ける

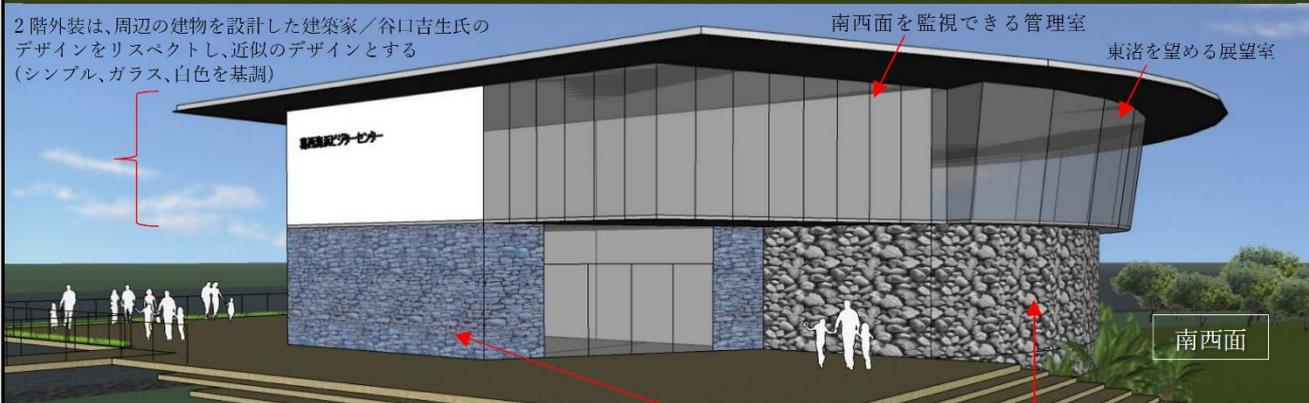


建物周囲は盛土をせずに（建物内への砂侵入防止）、木製ウッドデッキと浜辺の植生にあった低木で高低差を調整する／南面に開かれたアプローチ

2階外装は、周辺の建物を設計した建築家／谷口吉生氏の
デザインをリスペクトし、近似のデザインとする
（シンプル、ガラス、白色を基調）

南西面を監視できる管理室

東渚を望める展望室



1階外装は、周囲の自然と同化するようなファサードとする（海をイメージした青色の石器質タイル&自然石の割り肌の仕上げ）

屋根部には大きな庇を設けて展望室をはじめ、室内への直射日光を極力避ける

渚橋から連続性のある木製デッキの
アプローチを設置（バリアフリー化）
テラスデッキでは、様々な屋外の
コミュニティイベントが開催できる
設えとする

東面にも
出入口を設置



砂浜からも
テラスデッキへはスロープも設置（バリアフリー化）

北面水路側に張り出した木製テラスデッキを設置する（賑わいの場）

橋爪 慶介さん（江戸川区）

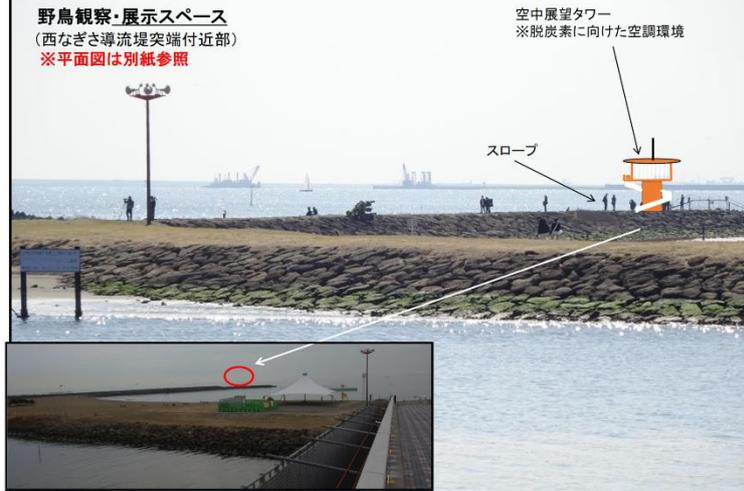
様式1 工夫案(スケッチ, 説明文等)

野鳥観察・展示
スペースは別紙参照



様式1 工夫案(スケッチ, 説明文等)

野鳥観察・展示スペース
(西なぎさ導流堤突端付近部)
※平面図は別紙参照

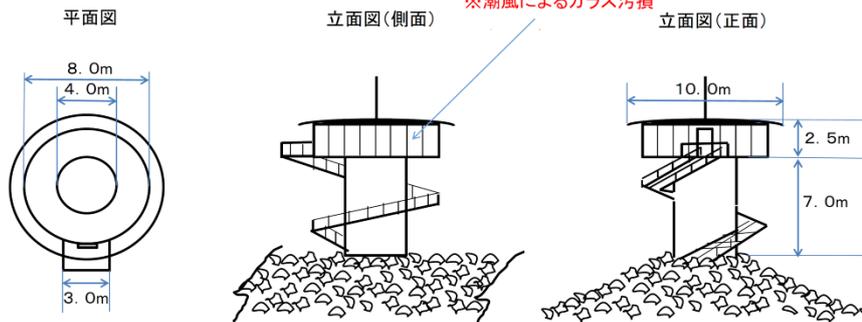


様式1 工夫案(スケッチ, 説明文等)

野鳥観察・展示スペース

(西なぎさ導流堤突端付近部)

屋根及び窓ガラスの有無については協議
※潮風によるガラス汚損



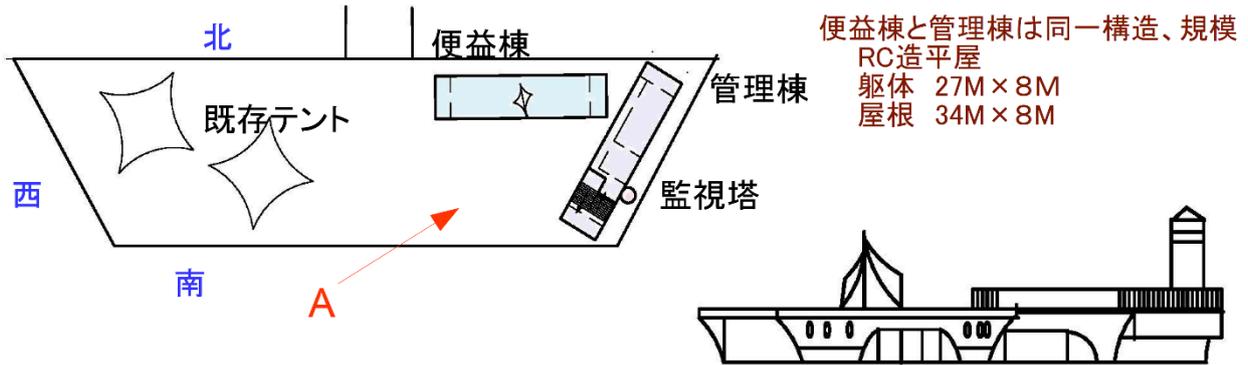
山本 章さん(江戸川区)

機能デザインの工夫

1. エリア全体でお迎え、案内
両公園管理センター、クリスタルビュー、鳥類園の各施設にもビジターセンター機能を併設
2. 暮らしの中の自然を実感
「里海」を体験、学習するのであれば、ガラス越しではなく、野外の風の中で。ライブカメラ等で補完
3. 海・山が交流するフィールドミュージアム
江戸前の海、干潟。汽水、干潟で環境教育。埋立と自然災害で郷土教育。江戸前のもづくり教育

施設デザインの工夫

1. 海・浜→船溜まりをイメージした施設群
建物は船をイメージさせるデザインで統一。添景として灯台や帆をあしらう。周辺にもマッチ
2. 平屋、機能別分散配置で重圧感の軽減
景観面も考えて平屋とする。便益、管理、監視機能を分離、V字配置。建物間の透きで軽さを出す
3. 水平線、円弧、白を基調にし、景観配慮
表面の仕上げは反射光の強いものは避ける。開口部の曲線、帆や灯台を添え、子供好みに

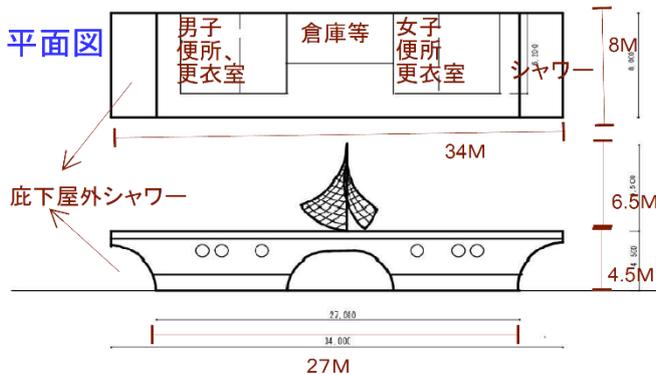


西なぎさ 橋台敷 施設配置図

A方向 全体施設 立面図

便益棟:

便所、シャワー、更衣室、倉庫



南側正面図

屋上は立ち入り禁止。セダム緑化、小石の州浜

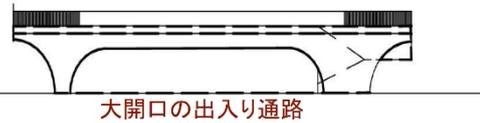
海苔ひびをデフォルメした帆型ネット
マストにスピーカー、カメラ可

監視塔: ライブカメラ、監視

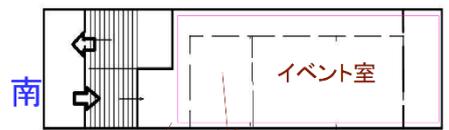
高さ13M位、直径3Mの円筒型

管理棟:

管理詰所、救護室、イベント室
展望観察用屋上



西側正面図

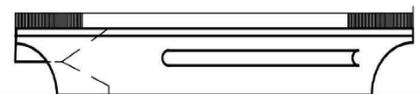


平面図

管理詰所
救護室

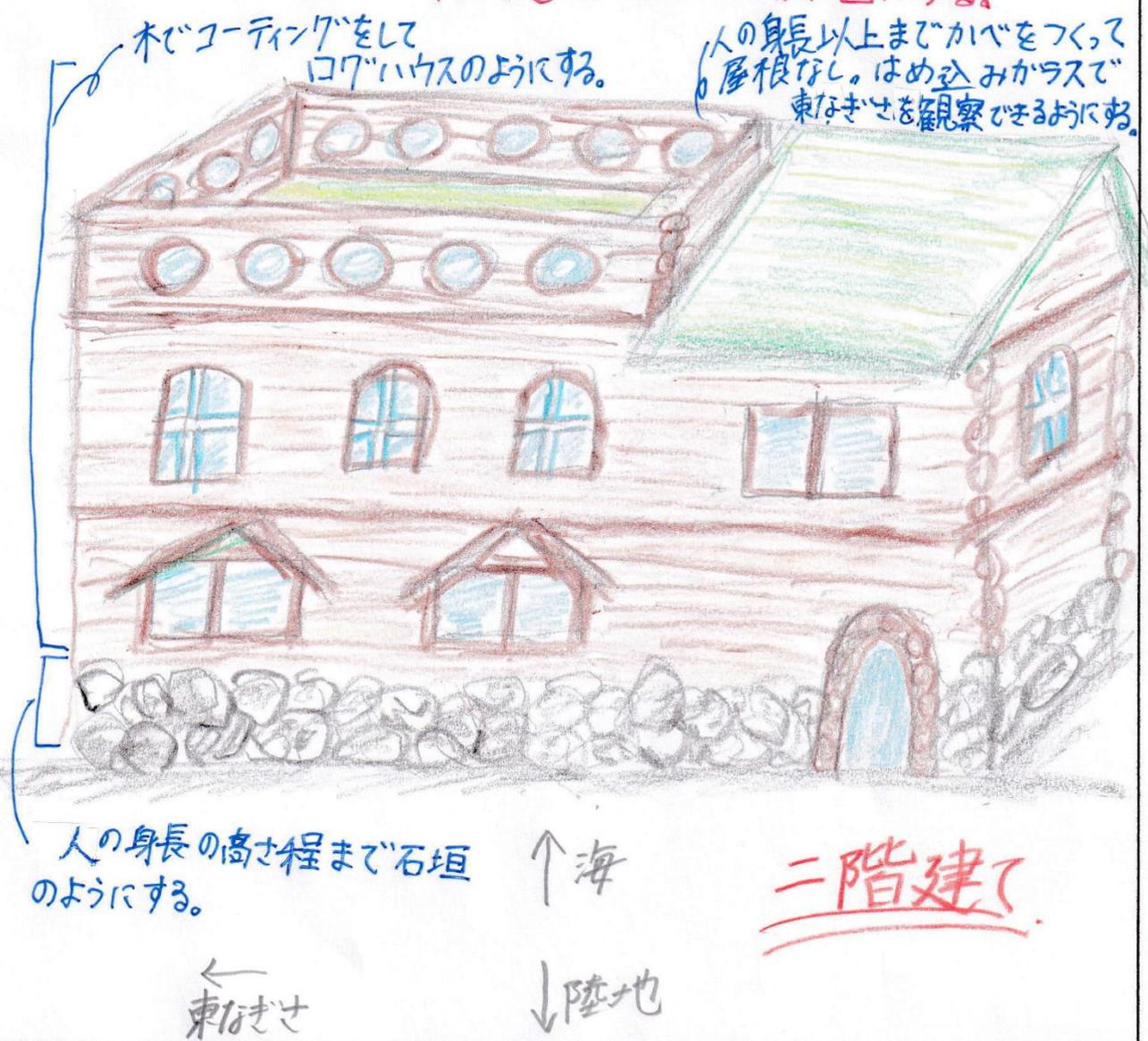
屋上は転落防止策設置
ピンク枠内は展望、観察広場

東側正面図

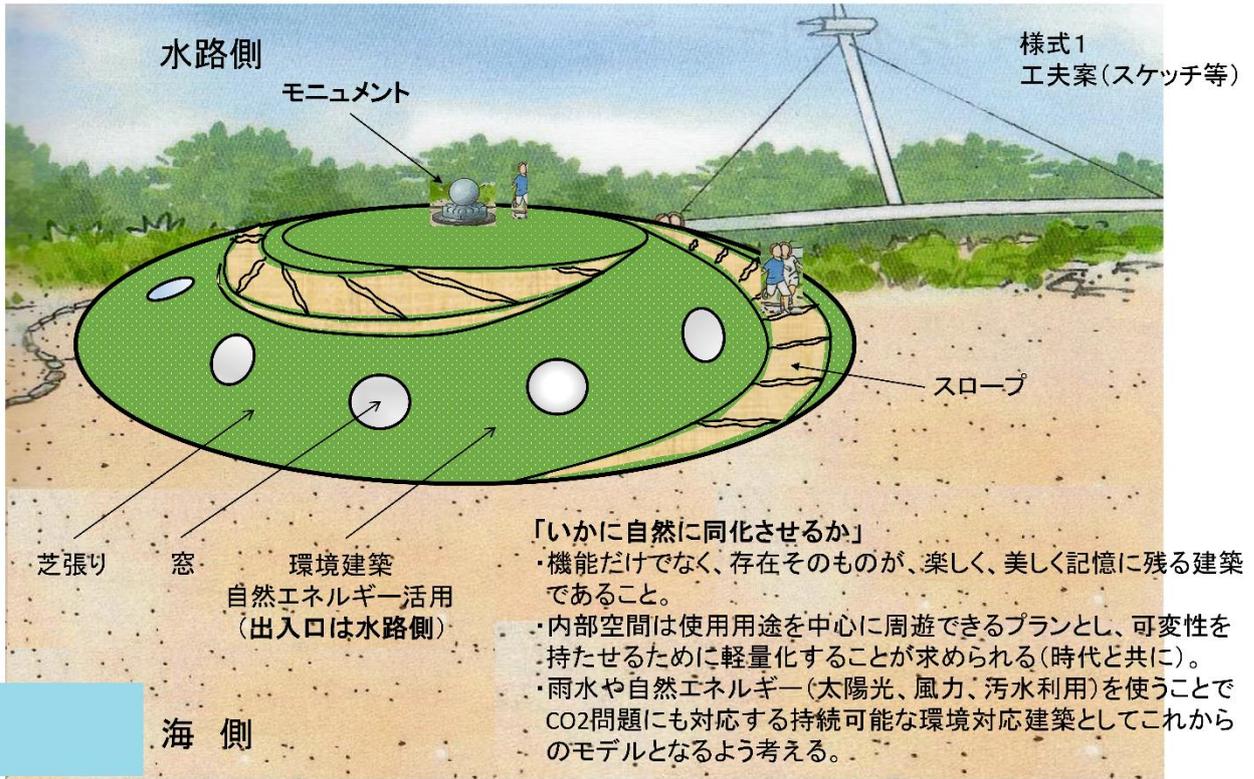


連続窓にして室内からも観察可

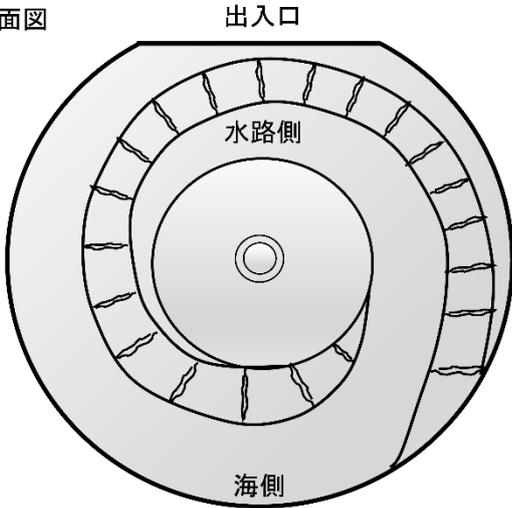
- ドアは陸地側、海側の両方につける。さらに、鳥が入ってこないように向かい合わないようにする。
- 屋上をつくり、一般の人も入れるようにする。人工芝を敷く。屋上の入り口には屋根をつける。屋根は周りの建物に合わせて緑色にする。



中澤 佳蓮さん (新宿区)



平面図



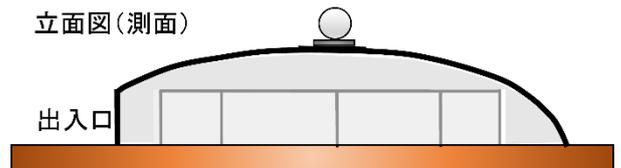
様式1

工夫案(スケッチ, 説明文等)

立面図(水路側)



立面図(測面)



関口 雄三さん (江戸川区)

お世話になります。

以下「意見」をお送りします。

弊会内で検討し統一見解意見としてまとめたものではありません。

弊会内で収集した意見をそのままお送りしています。

よろしく申し上げます。

A会員

- ・橋からバリアフリー入路がある事は必須。
- ・2階へはエレベーターがある事も必須。
- ・1階はトイレ、図鑑等の書棚が欲しい。
- ・2階は観察スペース施設として1部屋柵無しオープンスペースとして使えるようにしたい。
- ・建物は防犯上ガラス張りが好ましいが鳥がぶつからない様にガラス窓に模様を入れる等の工夫が必要。
- ・常駐解説人員は防犯上も必要。
- ・観察建物を建てた理由と経緯の広報スペースの設置。
- ・ラムサール条約に対する葛西臨海公園の立ち位置の広報スペースの設置。
- ・ラムサール条約登録経緯、葛西海岸の歴史、臨海公園の役割等、広報施設の役割の広報スペースも重要。

B会員

- ・一階は公園事務所（倉庫あり）、トイレ、自販機
- ・二階は眺望スペース、展示スペースとし二階の屋上も登れるようにする。
- ・建物は小さくてよい。大げさなものは不要。

C会員

- ・海水浴や磯遊びのための施設と鳥などの観察のための複合施設になると思うが、東なぎさを観察するためには、必然的に一階が海水浴等のための施設、2階が鳥などの観察するための施設にならざるを得ないのではないか。また、屋上に出られるようにしゆっくり観察できる観覧席を設置したらどうか。
- ・計画している箇所であると、ある程度高い施設でないと東なぎさは見ることが難しいのではないかと思う。また、冬の沖はスズガモの大群が来るが、数カ所にカメラを設置しセンター管内で東なぎさ全体の詳細が映像で見られるようにしたいのではないか。
- ・西渚については、余り鳥もいないし、歩いてみることもできるので生物観察は考えなくてもよいのではないか。ただし、景観を見たいのであれば別。
- ・時期ごとの鳥の写真展示や水槽を設け魚や甲殻類を飼育し展示したらどうか。
- ・難しいと思うが、計画箇所ではなく東なぎさ最西端(西なぎさに人口:東なぎさに出ることはできない)に施設を設けられないか。

D会員

- ・ビジターセンターの一番の目的は東なぎさ、西なぎさの野鳥の観察であることを常に意識して設計して欲しい。
- ・ビジターセンターには可能ならば平日も常駐する案内人を配置して欲しい。
- ・施設内にラムサール条約に関する解説展示をし、頻繁に更新して欲しい。
- ・車椅子の来訪者にも利用可能な施設にして下さい。
- ・施設のデザイン・機能は極力シンプルにして欲しい。

E会員

- ・沢山のいろいろな趣味や会議などに利用が見込まれると思うので、貸会議室を用意して頂きたいです。

F会員

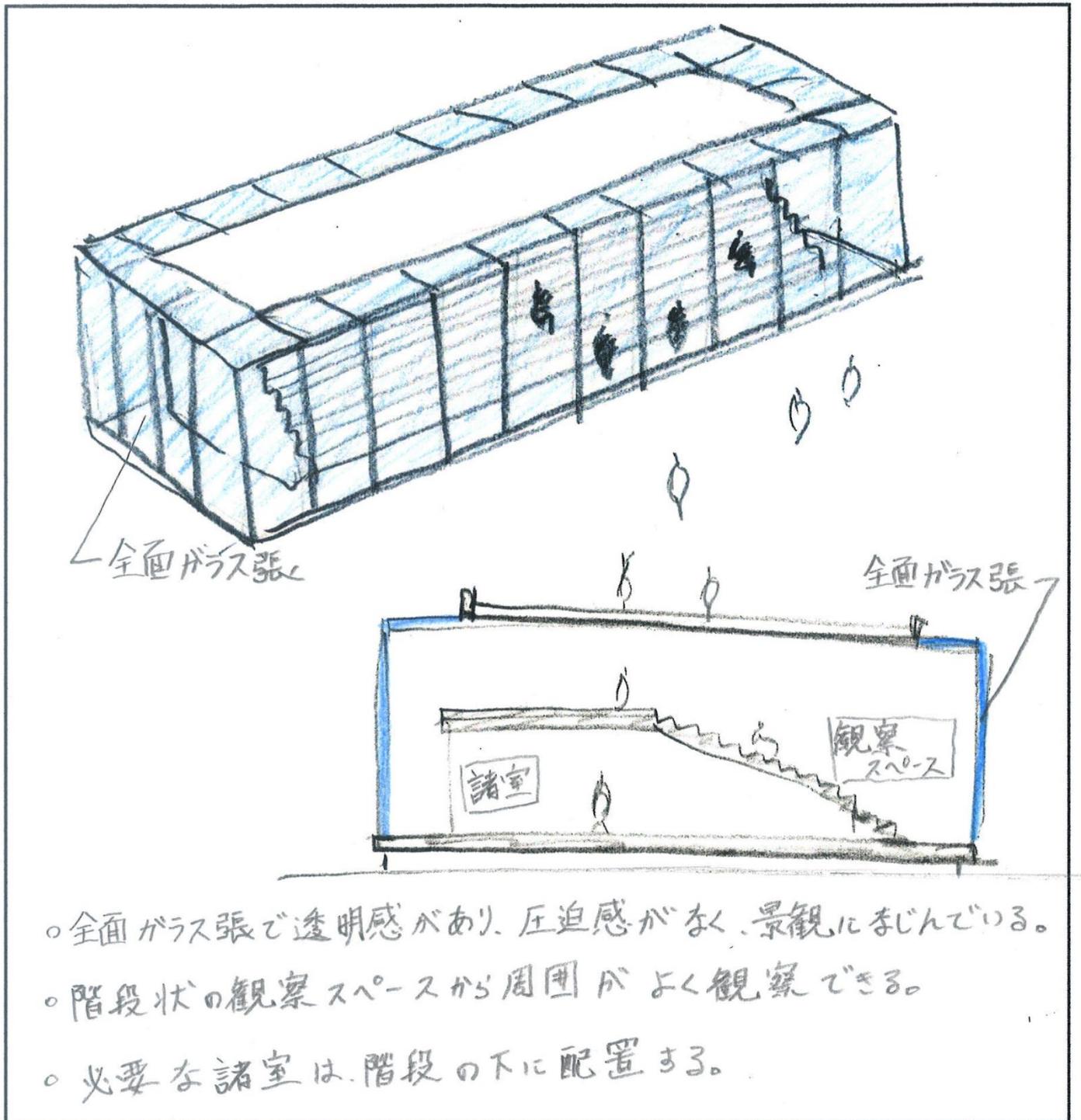
- ・ビジターセンターについては西渚に今以上の建物は必要無く、観覧台・土手を高くする程度のもので良いのではと思っていましたが・・・決まってしまったなら仕方ないです。保全活用懇談会で出された意見に共感することも多いです。
- ・「提案要件」の「アイ・ウ・エ・オ」は実現したいです。
- ・20年～30年を経ても保全されるように願っています。
- 鳥類園のウオッチングセンターのようにはならないように。
- 【東京都は素晴らしいものを創るのは得手であるが、それを保全・管理してゆくのは不得手】と上野の建設局の人から聞いたことがありますから。
- ・センター（仮称）の名称ですが、「ワイズユース館」って如何でしょうか？ ワイズユースはラムサールと切っても切れない言葉ですし、世界で通用する言葉でもあるし。日本語化しているように思いますが・・・英語に抵抗があるならば「渚・ワイズユース館」・「海浜ワイズユース館」・「三枚洲・ワイズユース館」などは如何でしょうか？

G会員

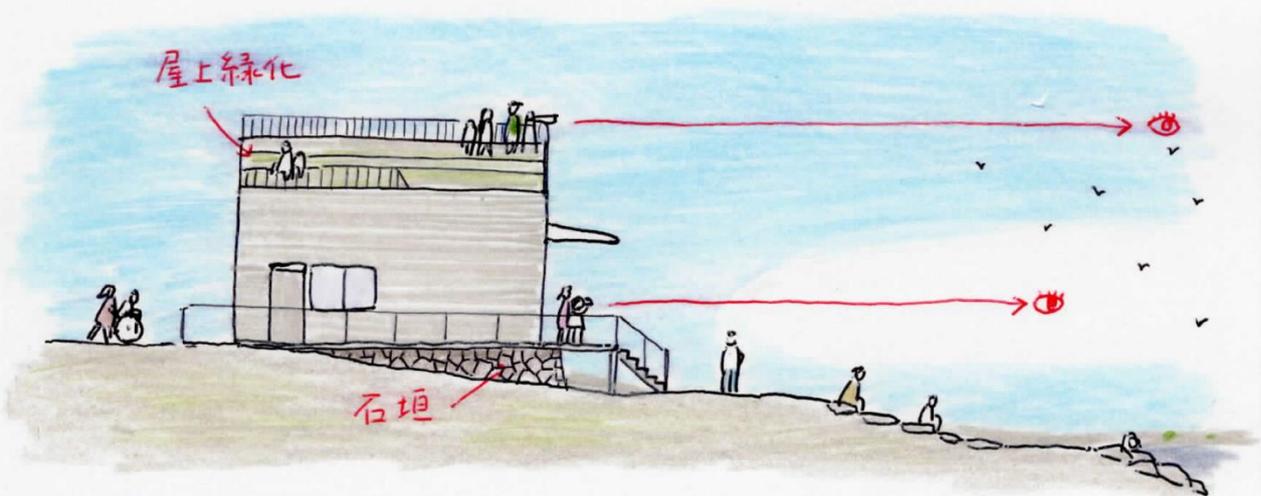
- ・東なぎさの野鳥観察が出来る様にして欲しい。
- ・ラムサール条約の提唱するワイズユース（賢明な利用）を意識した建屋にして欲しい。
- ・牛物の共生及び多様性をPRできて、調査保全活動も出来る様にして欲しい。
- ・バリアフリー化して欲しい。
- ・常駐の解説員を置いて欲しい。



林楊申同さん (さいたま市)



若林 亮さん（調布市）



- 2階建てではなく平屋にし、外壁は木材を使用します。
- 面積を小さくするためにイベントスペースと展示スペースは一体にします。

二嶋 洋太さん（北相馬郡利根町）

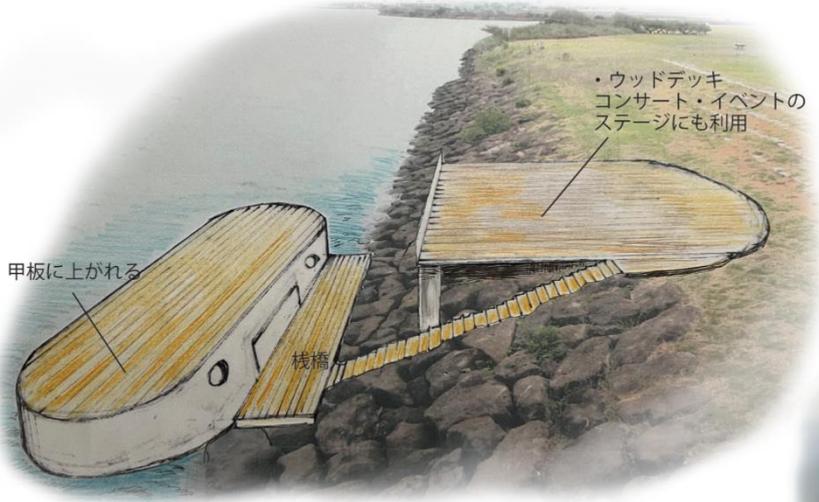
- 葛西海浜公園の風景に溶け込む外観
- クリスタルビューと重ねた時に生まれる新たな景観
- 海側からみた葛西臨海公園のロケーションを崩さない、極力遮らない、デザインと設置位置、規模。
- 開けた空間維持の為、可能であれば平屋にし、屋上の活用を検討
- 屋上緑化もしくは、浜辺の砂の色に合わせた塗装及び緑化。
- 屋上への階段を設けても良いが自由に坂を上れる角度に。
- 館内は、自然と環境を学べる学習センターの設置（望遠鏡などを活用した観察エリア）
- トイレ、夏場のシャワールーム、更衣室、BBQ 利用者にうれしいコインロッカーや管理運営事業の事務所や受付、ストックルームなど。
- 全面ガラス張りはクリスタルビュー同様、室内が高温になりやすいので避けたほうが良い。
- イベント、ワークショップ開催可能な多目的スペース設置



野尻 徳也さん（渋谷区）

SHIP VISITOR CENTER

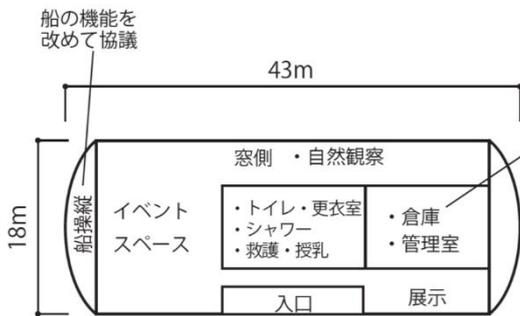
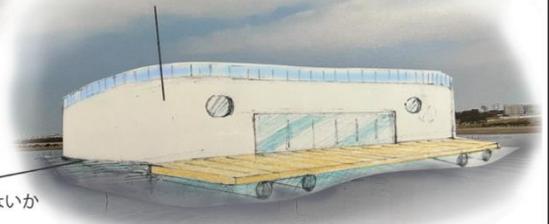
この VISITOR CENTER は船です。船内はビジターセンターに必要な設備を整え、たまには、葛西沖の三枚洲まで出かけて行き、中から、鳥の群れを観察したり、甲板からハンゴで三枚洲の干潟に降りたりします。近くて、遠い三枚洲を身近に感じるワズユースな動くビジターセンターです。利用の可能性は無限大です。



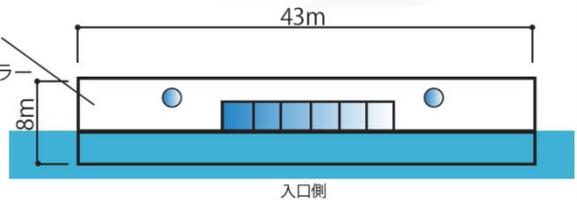
船着場を西側に設置した案—三角帽子のテントをつけて周辺景観に合わせる。



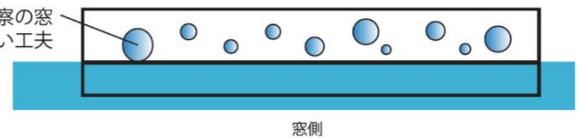
葛西臨海公園・海浜公園の景観に合うように、白を基調とする。



船の機能を改めて協議
船前面はマジックミラー

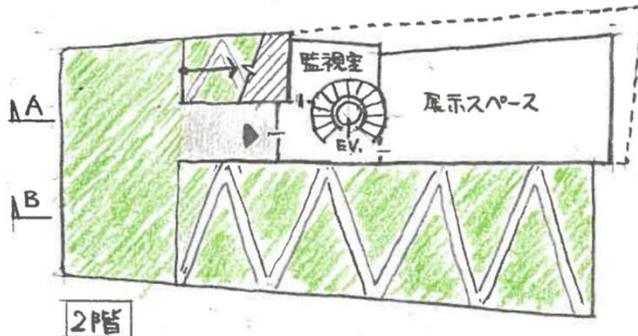
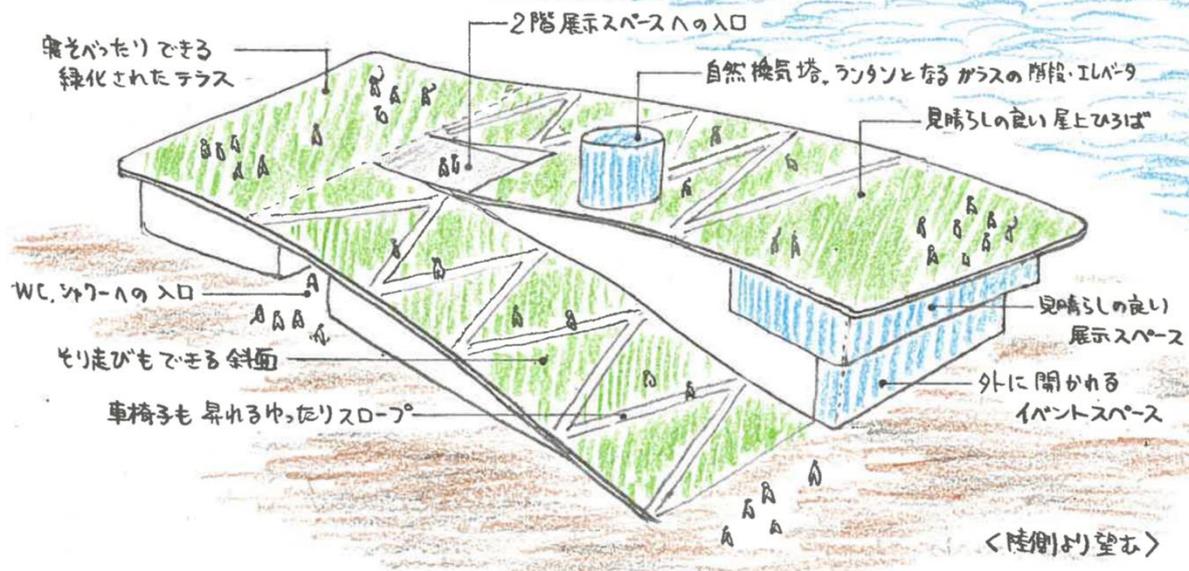


野鳥・自然観察の窓
人影が見えない工夫

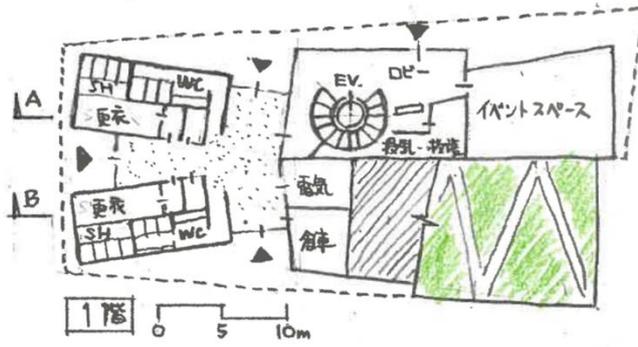


佐々木 美貴さん (江戸川区)

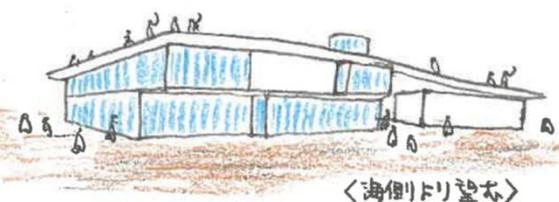
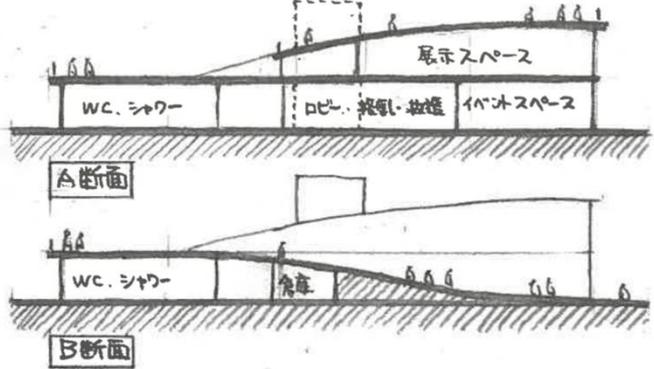
「ランドスケープとしてのビクターセンター」



2階



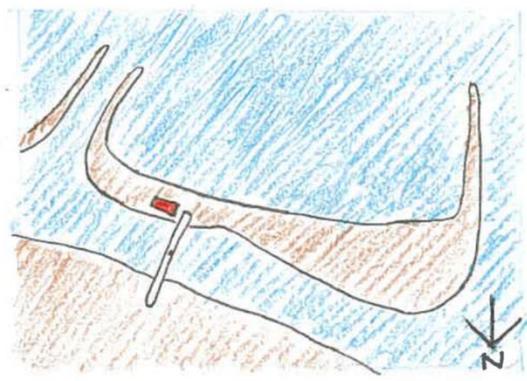
1階



・風景になじんだ緑化されたスロープ



- ・スロープは、子ども遊び場や休憩スペースに!
- ・スロープをのぼると見晴しの良い屋上ひろば!
- ・諸施設はすべてスロープの下に。
- ・WC、シャワーのエリアは、夏季には扉を開放して半屋外空間として外から直接利用可能。
- ・階段、エレベータが内包されたガラスの筒は、自然換気塔として、昼はランタンになって輝く。

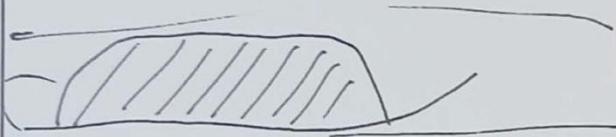


※ 陸地から見た時に、ひとつの丘のような建物を目指す

★ 屋根に上がれなくても大地との一体感があれば◎

ガラス、コンクリート打放に加え、屋根・壁にはウッディー感を出し、大地との一体感を演出。
建物は見た目的な装飾部分で直線をくずし、曲線のある建物が好ましい。

海



視線 (後ろから見たイメージ)

※ 横から見たイメージ



※ 屋根に上がれりように

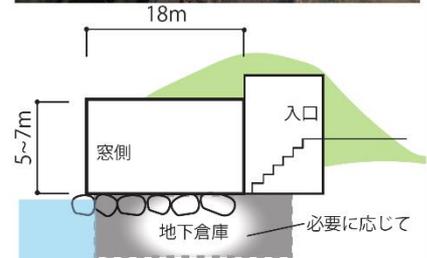
※ 参照イメージ (ネットでの拾い画像です)



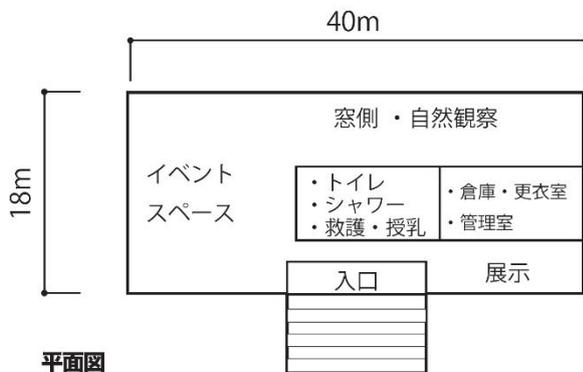
澤田 一宏さん (府中市)

VISITOR CENTER トビハゼ

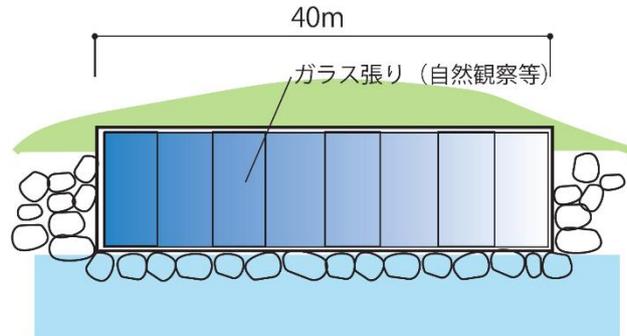
このビジターセンターは砂の中に埋もれています。トビハゼのようにちょっと口を開けて、目立たないようにひっそりとしています。葛西海浜公園は絶滅危惧種トビハゼの北限の生息地です。入口から階段で降りると、イベントスペースや設備は木材をたくさん使った内部になっています。一番の特徴は、現在の景観を壊さないことです。



断面図



平面図

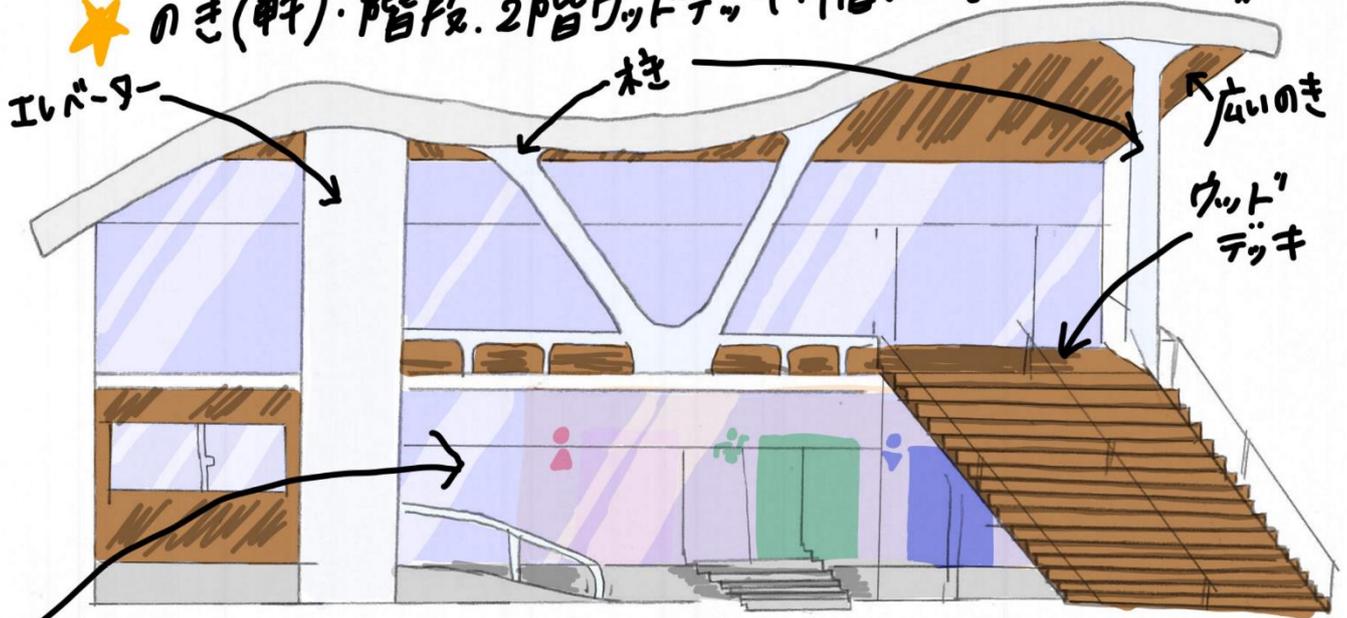


側面図

(住所非公開・匿名希望) さん

★ なごさをイキジした流線形の屋根!!

★ のき(軒)・階段・2階ウッドデッキ・1階の一部は木製



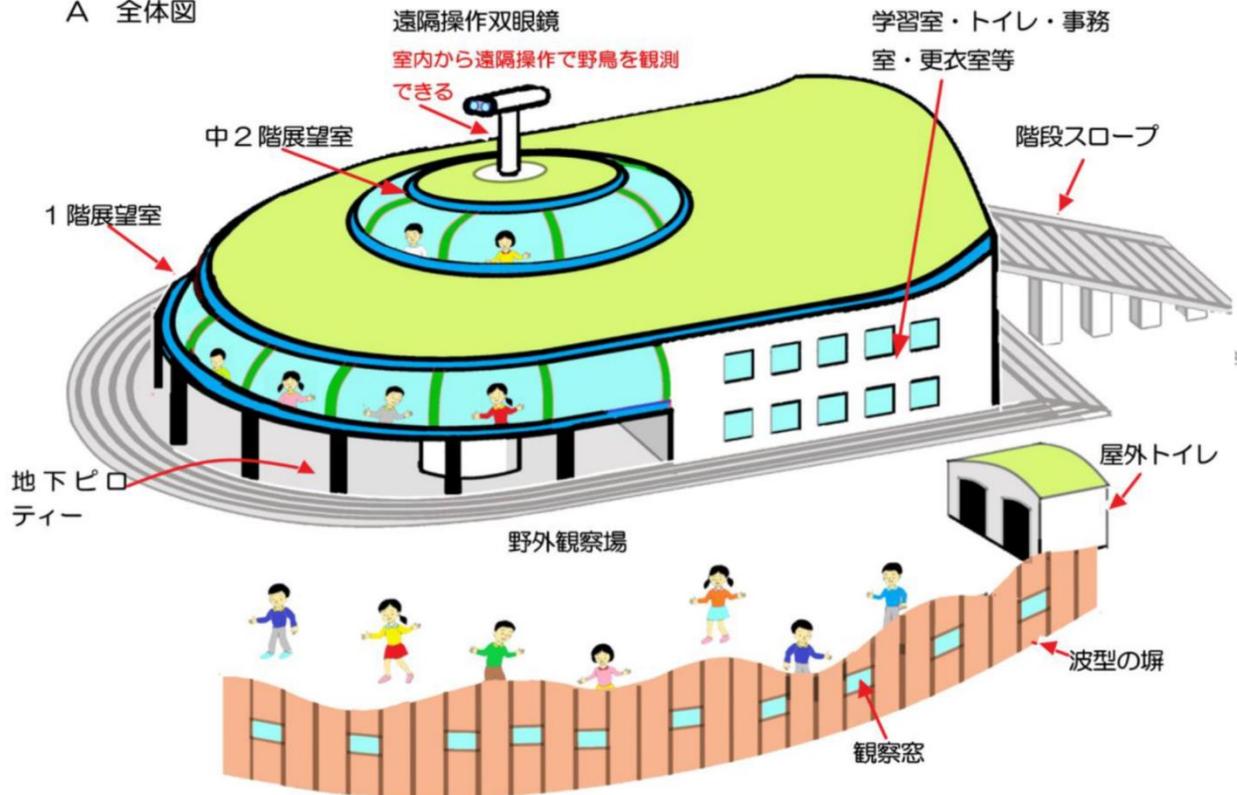
★ 2階部分・1階部分、ともに基本はガラスバリ
1階にトイレや管理室をまとめて、2階は観察
スペースをXTンにする

★ 木材は多摩産材を使用

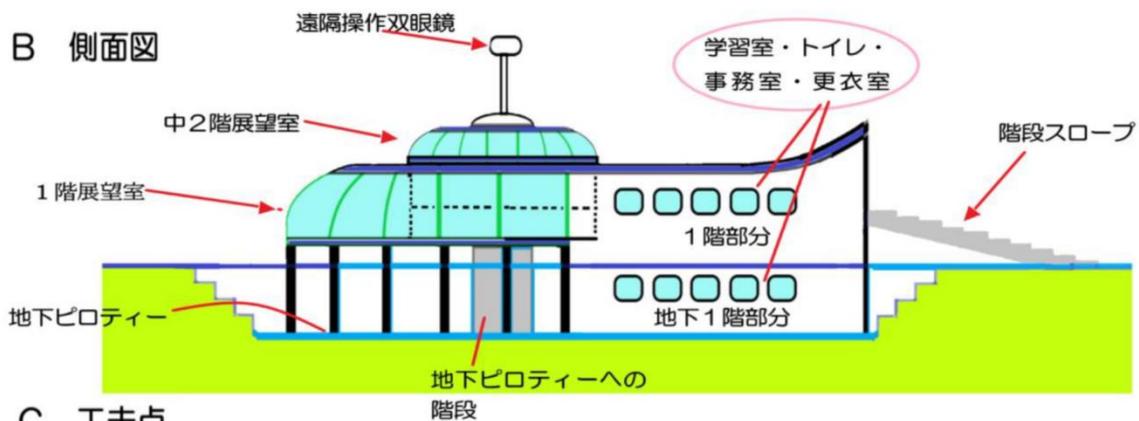
東京らしさ、東京ならではの
ビルディングセンターを表現!!

↑
ゆたかり
観察できよ外
(繁忙期にも
密にならない)

A 全体図



B 側面図



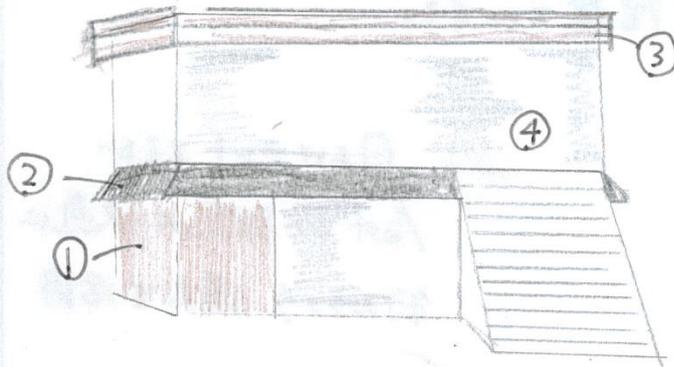
C 工夫点

- ・野鳥に警戒心を与えないために、建物の屋根の色を落ち着いた黄緑色にするとともに、建物や野外観察場所の塀は曲線を多く取り入れたものにした。
- ・周りの景観を損なわないように高さを抑えたものにした。そのため本来1階に当たる部分が地下1階となるようにした。
- ・野鳥観察がしやすいように展望室は全面ガラス張りになるようにした。また遠隔操作で室内から遠方を観察できるような双眼鏡を設置した。
- ・野外でも観察できるようなスペースを建物のわきに創り出した。野鳥が警戒して逃げ出さないような塀を設置した。

木野田 博彦さん（埼玉県さいたま市）

テーマ：“さとうみを引き継ぐ家”

既存の設計案を踏襲しながらも。



1階部分に江戸の漁師宅のイメージを取り入れ。

SDGsの江戸のさとうみを
つなぐ。次の時代を作り。
世界に発信する拠点にする。

① 1階壁面に多摩産木材を活用

- ・木材活用により視覚的に森と海をつなぐ
- ・さとうみの江戸の漁師宅をイメージし、伝統をつなぐ

③ 2階ガラス壁面上部に木材を設置

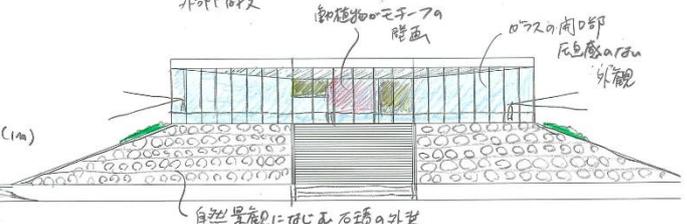
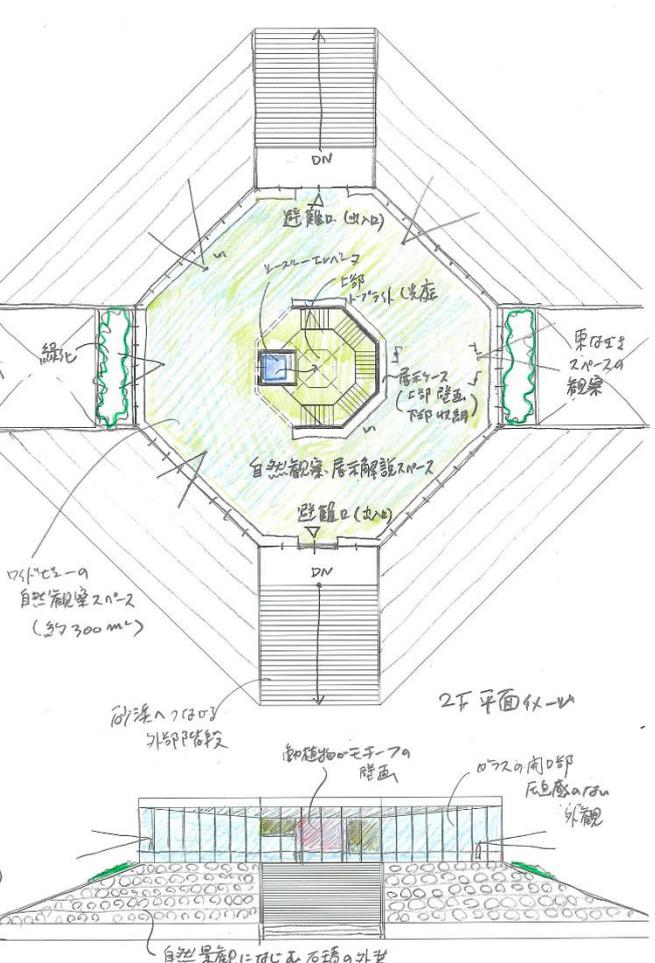
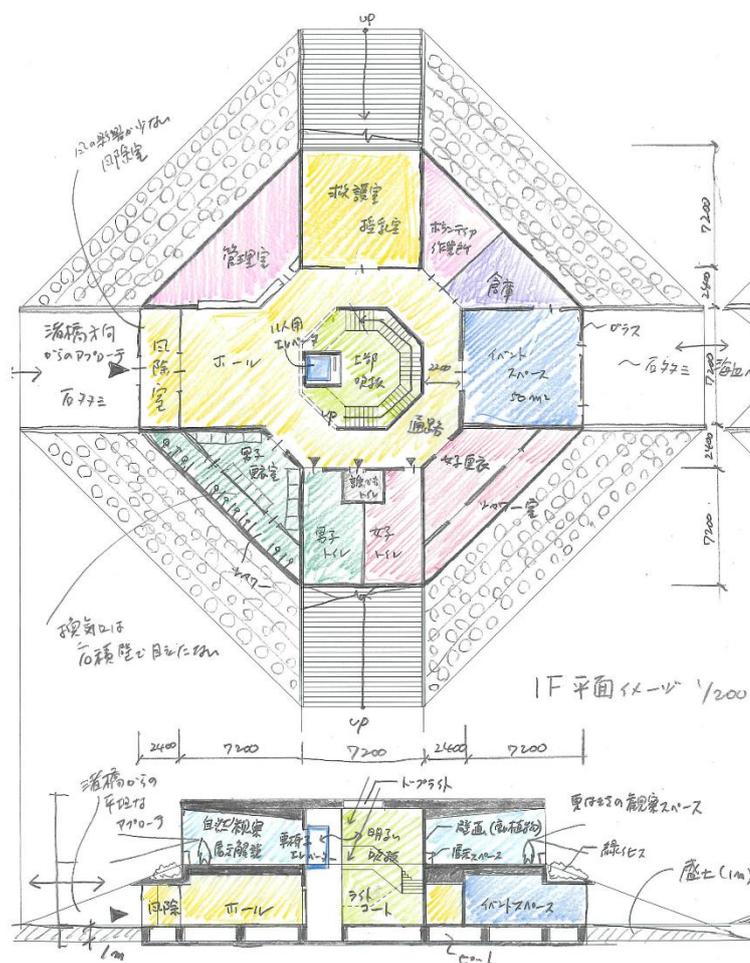
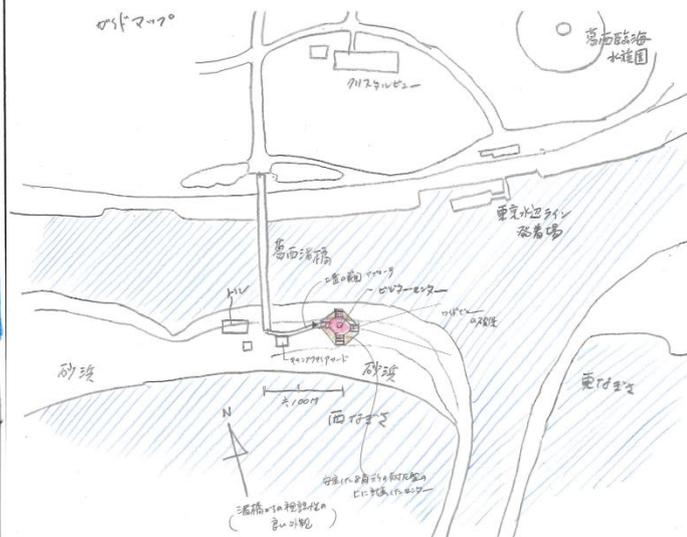
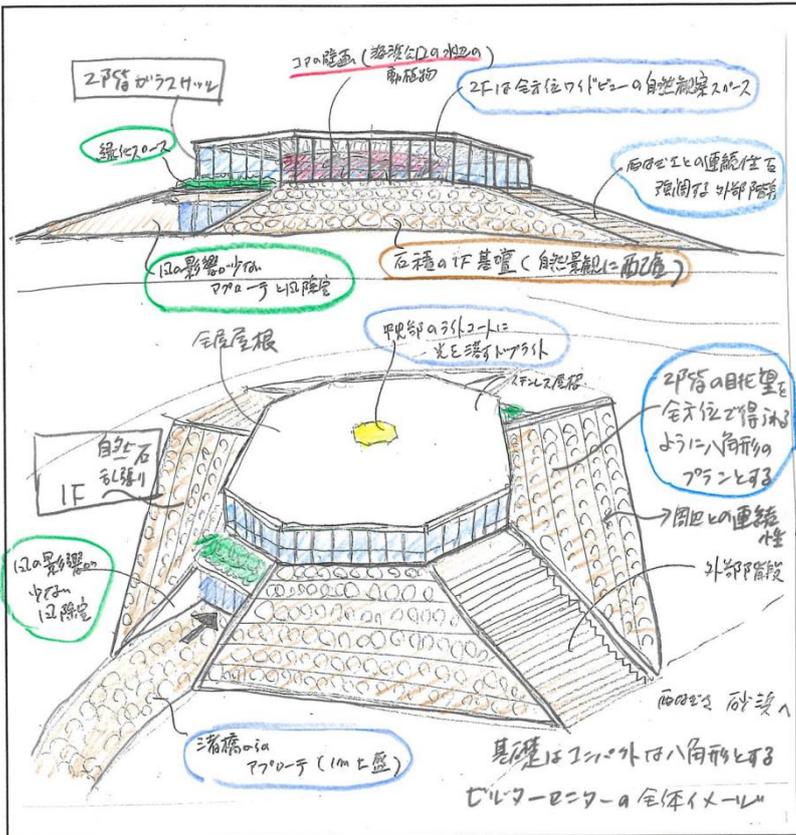
- ・ガラスへのボードストライクを抑止する。
- ・夏はよしず張りをして2階部分がよしず小屋化!

② 1階上部に小さく屋根瓦を取り付ける。

- ・江戸の漁師宅のイメージをさらに引き立てる。
- ・“江戸の漁師宅” = “さとうみ”の上にある
- ・“2階” = “ここからの人と海のつながりをつくる場”
というイメージを強調する。

④ 2階は多数のベンチを設置。一部にステージを設ける

- ・ベンチとテーブルを設置し、カフェスペースとして活用。
- ・一部ステージを設けて、環境教育・啓発イベントに来場者を強制参加!



中山 信二さん (千代田区)